

平成29年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 楠見 中学校
校長氏名	田 上 卓 慶
作成日	平成30年(2018年) 3月 1日

1 教育目標

たがいに温かく 自己にはきびしく 進んで 知を磨き 心を養い 体を鍛えていく たくましい生徒を育てる

2 本年度の取組についての評価

	地域とともにある学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	学校・保護者・地域が連携を深め連帯感を持つが重要と考えている。そのために地域と保護者・生徒が共に校内外の環境を整備する作業を計画・立案し協力・協働しながら進めていくことが、信頼関係をさらに深め、連合自治会や2地域子ども会との関係連携を密にする事が出来た。今後とも、地域の協力を積極的に求めていくため努力していく。	家庭生活や学校生活の場面において、生徒一人ひとりに目を向けた行き届いた気配りができる対応を心がけ、関わり合いを大切に、道徳観や社会規範意識を高める活動をさらに進めたい。また、人権教育（同和教育含む）をさらに充実させ、生徒の意識向上に努めていきたいと考えている。	ペア・グループ学習授業形態を進め、能動型学習形態の構築を進めていきたい。さらなる「学ぶ意欲」を高める授業の創造に取り組む必要があると考える。また、全国学力状況調査や県学習到達度調査結果を真摯にとらえ、授業に反映させる方法・内容を研修で学び、相互授業参観の機会を設ける。
取組の状況【D】	学校教育活動を地域の人に知らせていくためにもPC活用を進める必要がある。楠見地区連合自治会の年間計画になっている休日開催の体育祭を継続する事が出来た。各自治会など地域の各種団体の会議や行事に多くの教職員や生徒が参加し、交流が持てたことは高く評価したい。	差別を「しない、させない、ゆるさない」態度を育て、人の尊厳を大切に指導を心がけ、人権・同和教育を強く推進する。各関係機関と連携を深め、不登校解消や生徒指導上の改善に向け積極的に取り組む。また、家庭連携を進め、粘り強い指導を実施し指導方法や状況に応じた取り組みを進める。各委員会を中心に生徒の情報交換をきめ細かく行い、共通理解のもと全教職員で取り組む体制をつくる。休憩時間や昼食時等、あらゆる機会を活用して、生徒との交流に努め生徒理解を図る。	学習課題を現職教育で話し合い、生徒の学ぶ意欲を高める授業の創造に取り組む。朝読書・朝学習やテスト前の補習、基礎学講座等の充実を図り、校内研修で相互に授業参観の機会を設けるとともに家庭学習の仕方等についても指導する。落ち着いた環境で学習体制づくりを進めるため、教職員はチャイムと共に行動する姿勢を継続する。小人数学習形態授業・個別学習を充実させ、生徒の学習意欲を高め、学習のつまづきから解放させる授業を目指す。
（評価結果【C】）	学校行事だけでなく、PTA活動や作業に保護者や地域の方々が数多く参加・参観してもらい継続的な取り組みを行い、学校・家庭・地域の距離感をさらに縮め深めたい。また地域行事に積極的に参加し、会話の中で出る様々な意見や情報も大変参考になった。	地域や関係機関の懇談会、2地区子供会の様々な行事や研修において、生徒の健全育成や学習意欲向上に様々な意見をいただき有意義であった。また、こども総合支援センター、児童相談所・少年センターだけでなく、スクールカウンセラーとの連携は、教職員の意識改革にも繋がり、問題行動の減少やいじめ・不登校の解消に向けて大きな財産となった。	基礎学力向上のため、プリント活用や朝学・朝読書、基礎学力講座・単元終了時の確認等を実施。生徒の学力向上に一定の成果があったと感じている。また、生徒の学ぶ意欲を高めるため、わかりやすい授業を展開するため、多くの授業公開と協議をセット化した授業改善を進める必要と考える。
改善方法【A】	生徒の健全育成、学力向上、社会規範意識向上などの健やかな成長を願い、学校と家庭、地域がさらに連帯感を深めることが大切と考える。地域との交流を進め、「楠見はひとつ」を合言葉にそれに向かって教職員がもっと地域に出て行くよう心掛けたい。	学校生活や家庭生活の場面において、生徒一人ひとりに目を向けたきめ細かな対応を基盤とし、生徒との関わり合いを大切に教育を推めたい。自分と他人を大切におもう人権教育をさらに充実させていきたいと考えている。	楠見地区生徒の基礎学力定着を図るため、小学校との連携を基盤に、落ち着いた環境での学習体制の構築や生徒の学ぶ意欲を高める授業の創造に取り組む必要がある。そのためにも、校内研修で相互に授業参観の機会を設け、協議しを活性化し授業力向上を目指していきたい。

3 その他の課題

学力向上に向け、昨年度と同様全ての教員による公開授業と校内協議研修の充実を進めたい。同時に、社会規範意識向上とその言動には、中学校だけでは解決できない多くの課題がある。その解決に向け、各関係機関だけでなく小学校、家庭、地域とともに連携した楠見地区ぐるみで育てていかなくてはならないと感じている。同時に特別に支援が必要な生徒や非社会的（不登校等）・反社会的行動（器物損壊や暴言/暴力）を起こす生徒が多く在籍している。また、対象保護者の攻撃的で強烈な学校批判にさらされ、教師の多忙化に拍車がかかっているのが現状である。学力向上と生徒指導上の落ち着いた学校運営の両輪と捉えていく学校運営が課題である。学力面では、各教科で小人数形態の授業を数多く展開したいと考えている。生徒指導面では、道徳教育・人権教育に力を入れ、社会規範意識の向上とその言動に力を注いでいきたい。
--